

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	中村 佳子
主な担当科目	オペラ演習Ⅰ②,歌曲特別演習①,歌曲特別演習②,身体表現法②,聴音・視唱ソルフェージュ②
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	新型コロナウィルス感染症の5類感染症移行に伴い、通常の授業・レッスンの他、オペラ公演等も本来の形で運用できるようになる。これまで制限されて来たオペラ演習では、自己を解放し他者と関りながら共に考えて場面を作ることを中心に授業を展開したい。声楽については第一に求められる声の響きを追求し、歌う喜びを伝えられるレッスンを行いたいと考える。ソルフェージュでも歌唱の楽しさを味わえる工夫を凝らした授業にしたい。
2023年の教育に関する自己評価	コロナの制限がなくなり、パーテーションのない空間で伸び伸びと指導できたことは大きな収穫であった。1年生から4年生、遠く海外から学ぶ留学生が互いの触れ合いの中で成長できるような機会を作ると共に個々の学生との対話を心がけてきた。オペラ公演や大学祭に積極的に関与し、コロナ禍でコミュニケーション不足であった学生たちの共同作業をサポートすることができたと思う。
2023年のFD活動に関する自己評価	声楽部会FD研修会ではテーマ毎にグループ分けをしてフリートークで進める形を提案し実施したところ、クラス授業の担当教員や若手の教員からも活発な意見を聞くことができ、学生たちの様子を共有できた。専任FD研修会では本学の現状と今後の展望が明確になり、今後の教育のあり方や広報活動など様々な面で指針となることを確認できた。データDVワークショップでは、ハラスメント委員会や学生相談で遭遇する事例に繋がる対策を多く聞くことができ大変参考になった。
授業改善のために取り入れた研修内容	全体FDで学んだジェンダーの問題は、オペラなど元々男女の役割があり演技上身体接触のある舞台芸術を教育としてどのように指導していくのか、新たな視点から考え直す大きなきっかけとなった。声楽部会FDで出された、精神的な問題を抱える学生、文化、習慣の違う留学生が大学の中で困難を感じる場面でのアプローチの仕方にも通じるものがあると感じた。授業の目的をきちんと説明して対話の中で進める、という方法を取りたいと思う。

2023年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:0424 教員名:中村 佳子

1)アンケート結果に対する所見

「オペラ演習Ⅰ②」は開講2年目の授業であるが、昨年度の経験を基にオペラを学ぶ基礎として必要な「心身の解放」をメインに授業を組み立てた。静かな学年であるが大変意欲的に取り組んでおり、毎回の取り組みを見ながら柔軟に対応できるシラバスを作っていたため、創造的な授業を創ることができたと感じている。回答者が半数以下であるため満足度100は必ずしも実態通りではないかもしれないが、この授業を楽しいと感じてもらったことを嬉しく思う。

「聴音・視唱ソルフェージュ②」はA・Bクラスとも真面目によく取り組んだ。ソルフェージュはできること、できないことが個々の学生によって違うので、何をやりたいか、何が足りないかを学生に問い合わせながら様々な課題を使って運用を工夫した。概ね良い評価を得て良かったと感じている。これからも様々な学生の個性を注視し、学ぶ気持ちに応えられるよう努力したいと思う。

2)要望への対応・改善方策

「オペラ演習Ⅰ②」はこれまでの経験を活かし、更に学生たちの自主性と協調性を引き出せるよう、創造性のある楽しい授業を展開したいと思っている。歌うことだけでなく個々の気持ちに寄り添い耳を傾けることを基本におきながら、問題意識を引き出して、自ら学ぶ姿勢を育てて行きたいと思う。「聴音・視唱ソルフェージュ②」は履修する学生のレヴェルを見て副教材を選定し、興味や関心を持って臨める授業を展開しているが、「学生のできない点を伸ばしていく教授法を考えてほしい」との記述があった。クラス授業であるがひとりひとりの力を見る時間を作り、様々な方法で応えて行きたい。

3)今後の課題

コミュニケーション能力が重視される時代だが、SNSやインターネットゲームで育つ現代ではその力を養う機会が少ない。オペラ演習などの複数メンバーでの創造的な授業では、単にオペラを学ぶだけではなく、様々な能力を身に付ける視点を持って進めるべきであろう。柔軟な思考力を持たなければ、多様な学生に柔軟に対応していくことはできないことを念頭に、来年度も取り組みたい。

以上